

## 憲法 13 条の「個人の尊重」と霞ヶ関の仕事

上野秀樹(医師・Web 公開講義聴講生)

厚生労働省の役割、そして霞ヶ関の仕事をはじめて理解できたような気がします。とても興味深い講義でした。

「社会保障が最大の内政問題」という後半では、豊富なデータをもとに社会保障に関する問題点をわかりやすく示していただきました。

急速に進行する人口の高齢化、増大する社会保障費、それに伴う財政赤字の拡大..、マスコミから垂れ流される悲観的なニュースを聞いていると、どんどん不安が高まります。しかし、こうした国レベルの課題でも、データを元に原因を分析し、諸外国での取り組みも比較して考えていけば、これからどのような対応していけばいいのか、課題に対する解決策が明らかになるのですね。

このようなことが理解できると、主権者として解決しようという意欲がわいてきます。

前半で、霞ヶ関の既存のルールでは解決しない案件に対して、現場の差し迫ったニーズを知り、制度内の工夫、制度を越えた取り組みから、問題解決に向けたアプローチを発見し、単なる利害調整を越えた、「新たなルールの創造」をしているとおっしゃいましたが、その意味がよくわかりました。こうした社会の中での課題へのアプローチも、国レベルの課題へのアプローチも、基本は同じなのですね。

私も数年前に「認知症の人への精神科訪問診療」に関して、厚生労働省の方から、たくさん質問を受けました。「先進事例でアプローチの方法を知る」ということだったので、はじめて理解しました。

さらに、チームで  $1 + 1 = \infty$  の力を発揮すること、まさに無限大のやりがいですね。スライドで、20 代、30 代、40 代、50 代と綴られた職歴の行間から、とても充実した仕事ぶりが伝わってきました。

暮らしと生きがいとともに創る「地域共生社会」、「我が事、丸ごとの地域づくり」のコンセプトは素晴らしいですね。世の中にはたくさんの方がいて、多様な人々が存在します。ひとり一人が皆違う存在だからこそ、その人の価値は「代わり」がきかない、かけがいのないものなのではないかと思います。そのような人々の多様性、違いを尊重し、「地域共生社会」を作り出していくこと、憲法 13 条の「個人の尊重」を実現していくことが、霞ヶ関の仕事なのだということがわかりました。

みずから政策づくりに携わられた人材キャリアパスの複線化は、「地域共生社会」の実現を支える、単なる利害調整を越えた「新たなルールの創造」であると感じました。

貴重なお話をどうもありがとうございました。ますますのご活躍を期待しています。